

# 平成28年度 第2回 佐倉市立美術館運営協議会

## 議事録

日 時：平成29年3月4日（土） 14：00～16：00

場 所：佐倉市立美術館 4階会議室

出席者：以下のとおり

(委 員 10名)

樋田委員（会長）、大久保委員、齊藤委員、高橋委員、田中委員、  
豊田委員、広本委員、村田委員、安本委員、吉村委員

(美術館職員 5名)

宍戸館長、永山主査（学芸員）、黒川学芸員、山本主事（学芸員）、  
西川主事（学芸員）

### 会議次第

1. 開 会
  2. あいさつ
  3. 報告事項
    - ・平成28年度事業報告について（公 開）
    - ・平成29年度事業計画等について（公 開）
  4. その他
  5. 閉 会
- <展覧会鑑賞>

## 【報告事項】

平成28年度事業報告について

<美術館から説明>

(委員) 「ミテ・ハナソウ展2016」のミテ・ハナソウ・カードの引換が389枚と資料にあるのですが、これは作品を観た方が感想を書いて、それを読まれた方がまたカードを書いて、という流れなのでしょうか？

(美術館) ミテ・ハナソウ・カードは会場に貼っていたカードの事ではなくて、市内の小中学生にパスポートを配布する際、美術館に来るとスタンプを押し、たまるとバッジをプレゼントするようにしたカードのことです。そのカードの引換が389枚であったということです。尚、研究の間に立ち寄った方、これはカードを書いただけでなく、立ち寄った方も含めての数字ですが、1,583人となっております。

(委員) 「カオスモス」の期間が3月8日から3月28日まで、次の収蔵作品展が4月4日からとなっております。春休みの期間が1週間空いているのはもったいないなと思ってしまいますが、こちらの美術館は年度がまたげないのですか？

(美術館) 庁内で相談しましたが、会計年度を越えることは望ましくないとの結論が出ました。なかなか難しいようです。

(委員) せっかく力を入れておられるのに、もったいないなと思ひまして。私が相談を受けている他の自治体の美術館では、夏休みと春休みの期間は、休まずに動員数を伸ばせと言われていたらしいのです。この展覧会は特に有料ですから。

(会長) その相談を受けている美術館は自治体の直営ですか、指定管理者ですか？

(委員) 指定管理者です。

(会長) その違いですね。指定管理者については、色々ご意見があるようですが、こうした点については自由がきくようです。直営は単年度という考え方が強い場合があります。

東京都も現在、指定管理になっているのですが、3月から～4月10日までの展覧会を開催するとした場合、4月の10日間は会期末の駆け込みに加え、桜が咲いていることもあって動員数がかなり伸びます。その数字を予算資料として提出することで予算を獲得するであるとか、工夫することを検討していただきたいと思ひます。

他の直営の美術館で年度をまたいで展覧会を開催しているところがないか、是非調べていただければと思います。

※「検討事項 1」

(委員) 「鑑賞教室」の参加校について、昨年の8校と比較して、本年は4校と少なくなっています。小学校と中学校が2校ずつ減っているのですが、「施設見学」や「出前授業」の参加校は逆に増えています。このことには何か理由があるのでしょうか？

(美術館) 本年度、「出前授業」の参加校が増えたのは、施設改修に伴う4ヶ月の休館があることから、担当者が各校に働きかけたことも影響していると思われます。「鑑賞教室」や「施設見学」については、バスを使っていない学校を全て入れています。「施設見学」について、少ない場合は4、5人で来館される場合もありますが、「鑑賞教室」はある程度まとまった人数で来館されるため、休館中であつたことが影響していると思われます。

(委員) なるほど、グループによって異なるわけですね。

(会長) 「鑑賞教室」において、何か印象に残ったことはありますか？

(美術館) 初めて参加する小学校があつたのですが、年長の6年生ではなく、実験的に4年生を対象に行いました。まず、事前授業として昨年作成したアートカードを使ってゲームをした際、かなり騒がしくなってしまったため、美術館に移動した際、どうなるのだろうと心配しました。しかし、「名札」等について先生と共に色々と工夫した結果、美術館での個人鑑賞の時間にはとても集中して参加してもらえました。事前授業から美術館に来るまでの短い時間に成長が見られたことが、大変印象的でした。

(会長) その中から将来、美術館のサポーターが出てくると良いですね。

(委員) 博物館実習の内容について少し教えていただけますか？

(美術館) 学芸員資格をとるための課程を設けている大学から美術館に申し込みがあり、大学生に美術館の仕事を体験するために行われる実習です。期間は7月の7日間で、内容は、企画展の設営見学や収蔵作品展の関連事業考案の他、温湿度計の用紙交換や屋外彫刻の洗浄等の作業を行いました。参加校は、共立女子大学、東洋大学、和洋女子大学、女子美術大学、成城大学、の5校5名でした。

(委員) 実践的な内容が多いんですね。大学側の申し込みはどのように行われているのですか？

(美術館) 4月中がエントリー期間となっています。まず、学生が美術館にエントリー用紙を提出し、その後大学から正式な申し込みとなります。

(委員) 美術業界の発展のため、引き続き、実習生の方には出来る限り支援していただきたいと思います。

(委員) この実習は無料ですか？

(美術館) はい、無料です。

(委員) 今は有料のところも増えています。都内の美術館では実習料1万円というところもありますし、高いところだと、2万円というところもあるようです。大学が負担することは出来ないので、学生が実習料を自己負担することは大変だと思います。無料で実施しているということは、大学との連携ということもあり、誇れることではないでしょうか。ただ、受け入れ側の負担を考えると、実習生は5人が限界ですね。

(会長) 「カオスモス5」は7年ぶりの開催となりますが、再開するにあたって何か思うところがありますか？

(美術館) このシリーズには、千葉の作家のレベルが低くないことを知らしめる、というテーマがあります。再開するにあたって、より客観的な見地から展覧会が開催できるように、評価の高い国外の作家を呼んでくることは出来ないだろうかと考えました。そこでドイツ出身のクリスティアーネ・レーア氏の名が挙がったのですが、当館の予算のことを考えると、作家の了承を得て、国内のコレクションを借りて展示するというのが、当初の予定でした。しかし、展覧会の資料を提出するうちに作家から「佐倉に行って制作しても良い」との申し出があり、新作を制作してもらえることになりました。このことは他の4人の国内作家にとって、とても良い機会となると考えています。国際的に評価されている作家の作品と一緒に展示され、そこで良い仕事をすれば、自身の評価を高めるチャンスとなるからです。実際に自在置物作家の満田晴穂氏は今回の展覧会に合わせて、20点の新作を制作しました。彼らの今後の活躍に期待したいと思います。

(会長) 収蔵作品展の「memories」は美術館の活動の歴史を振り返ったものですが、展覧会名をお洒落な言い方をすると、女性の方も喜ばれたのではありませんか？

(美術館) 当館の収蔵作品は渋めのものが多いこともあり、様々な年齢層の方に楽しんでいただけるよう、展覧会名を変えてみました。開館から22年間、コレクションが美術館の核となる部分なのですが、その四つの収集方針をまとめてご紹介する機会が少なかったため、改修工事前に地域の方々に認知していただければという思いもありました。

平成28年度事業計画等について  
＜美術館から説明＞

（委員）「自転車の世紀」は、どのような構成なののでしょうか？

（美術館）展覧会は、4章から構成されています。第1章「自転車のたどった道」では200年前に作られたドライジーネ等の歴史的な自転車約10台を展示、第2章「描かれた自転車」ではフランスのポスターや日本の錦絵等、この章で佐倉に縁のある『弱虫ペダル』が取りあげられる予定です。第3章「自転車の活用」では日常、ビジネス、ファッションといった様々な用途において活用されている現代の自転車、第4章「モビリティの未来」では、安全、エコ、高齢化社会等のテーマについて、プロトタイプ等を紹介しながら未来の自転車像、を紹介する展覧会です。

（委員）概要は分かりました。どちらかという、博物館に近い展覧会だと思いましたが。通常の博物館でやっても十分通用する内容だと思いますし、こうした美術館らしくない展示というのも面白いのかもしれないですね。どれくらい自転車に関する美術資料が集まるのか楽しみです。

（委員）「自転車の世紀」は3館で開催されるということですが、展覧会に際して、それぞれの美術館で何か変化はあるのでしょうか？

（美術館）展覧会の基本的な構成に変化はありませんが、地域性をふまえた独自性はそれぞれの館が検討していると思われます。例えば、茅ヶ崎市では、《魔女の宅急便》の実写版に出てくる空飛ぶ自転車を作った工房が地元にあるため、関連事業を開催する予定だと聞いています。

（委員）千葉も5年位前から「ツール・ド・チバ」を開催しています。本年度は日本遺産の関係で北総4都市、佐倉、成田、佐原、銚子、をまわったと思います。例年、年度の遅い時期に北総地域をまわっているようなので、自転車協会等に展覧会の広報について働きかけてみては如何でしょうか？

（美術館）はい。他にも千葉の自転車交通安全キャンペーンに『弱虫ペダル』が使われていたり、そういったところでも県内の事業と同調し、より多くのお客様に足を運んでいただけるよう、考えてまいりたいと思います。

（委員）夏休み期間の7月18日から8月4日まで事業が抜けているようですが、何かなさっていないのでしょうか？

（美術館）「収蔵作品展」から「柴宮忠徳展」の間の時期は、市内の中学校の美術部展と、その美術部を指導する教員によるグループ展が1週間開催されています。

(会長) 事業計画について以前は美術館の主催事業以外も入っていたと思います。性格が違うのは分かるのですが、少し工夫して年間スケジュールに抜けているところがないようにしていただけますか？

(委員) 学校連携について、「出前授業」のメニューを学校に配る等の予定はありますか？

(美術館) 毎年、学校連携の各プログラムについてまとめたものを年度末に学校へお渡しして、希望調査を行っております。これはこの時期に各校で次年度の予定を立てていることに合せ、美術館で出来ることを宣伝する意味があります。ただ、新年度になると新体制になるため、もう一度希望調査をする必要があります。

(会長) 資料にインターンシップとありますが、前から行っているのですか？これは美術館に勤めたいという人が応募するのでしょうか？

(美術館) いえ、専門性の強いものではなく、高校生が職場体験のような感じで美術館の仕事を手伝うものです。

(委員) 東京国立近代美術館ではインターンシップを募集していますよね？

(委員) それは大学院生などを対象とした、かなり専門性の高いものです。学芸員を補助する目的で行っていると思います。

(委員) そうですね。博物館実習はお世話をしなければいけません。インターンシップは上手く使えば、学芸員の大変な業務を少し助けることが出来るかもしれません。

(委員) 収蔵作品展の名前なのですが、ネーミングは重要なので、少し考えてみると良いかもしれません。例えば、「浅井忠と弟子たち」は大変無難なのですが、浅井忠や高橋由一は元々武士だったことから、副題を「武士の芸道」や「サムライが剣を絵筆に持ち替えるとき」にしてみるとか、如何でしょうか？子ども達も来やすいかもしれません。

(会長) そういう意味では「根付展」も少し考えた方が良くもありませんね。

平成28年度施設改修工事（空調機器のエスコ事業、展示室等の壁面塗替え、エントランスホールの耐震工事）について  
＜美術館から説明＞

（会長）このことについて、何か質問のある方はおられますか？

（委員）特にありません。

※「検討事項」として下記の1つが挙げられた。

①多くの動員が見込める春に開催する展覧会について、他の直営の美術館で年度をまたいで展覧会を開催しているところがないか、調査する。